

ホップステップのとながわ

能登川地区まちづくり協議会

やすらぎの花公園 菜の花の種まき

10月6日(土) やすらぎの花公園(愛知川河畔。八幡橋南詰～JR鉄橋)で菜の花の種をまきました(参加者約30名)。来春が楽しみです。

■共催：滋賀県東近江土木事務所
能登川地区まちづくり協議会



参加者が横一列に並んで種まき開始

東近江市老人クラブ連合会能登川ブロック 第7回 親睦スポーツ大会

9月28日(金) 能登川スポーツセンターグラウンド
参加者：約1,200人(27チーム)

優勝：栗見出在家、準優勝：伊庭、第3位：山路、
敢闘賞：高岸台



快晴の朝、クラブ旗をかかげて入場行進



天台宗 織山 安楽寺にて普照房慈弘住職の話を聞くハイキング参加者

第49回 能登川地区市民運動会

10月7日(日) 能登川スポーツセンターグラウンド
参加者：約3,500人(34自治会)

【総合順位】

優勝：本町自治会、準優勝：能登川自治会、第3位：佐生自治会

【自治会対抗リレー】

優勝：山路町自治会、準優勝：桜ヶ丘自治会、第3位：堀切自治会

◆主催者(能登川地区体育協会)からのお知らせ

来年度は第50回の記念大会となります。地域のみなさまが一丸となって取り組める大会にしたいと考えています。



むかで競争(障害物乗り越えて走る)

第20回 能登川ふれあいフェア

10月21日(日) ふれあい運動公園(参加者約4万2千人)

■主催：能登川ふれあいフェア実行委員会

■共催：東近江市、東近江市商工会

■協賛：のとながわ福祉の会



快晴の会場でにぎわうリサイクルフリーマーケット(出店数100区画)

第18回無垢な魅力能登川を歩くハイキング

仏のところにふれながら自然を満喫

11月3日(祝) 参加者：約80人

■主催：東近江市商工会女性部能登川支部
いきいき事業研究会

No. 34

発行：能登川地区まちづくり協議会 発行日：平成24年11月20日
〒521-1292 東近江市駄光寺町262番地 東近江市能登川支所内
IP電話 0505-802-2793(平日午前中) FAX：0505-802-2793
E-mail：notomatikyo@e-omi.ne.jp
<http://members.e-omi.ne.jp/notomatikyo/>

福祉のまちづくり講演会

10月19日(金)、やわらぎホールで開催しました。「東日本大震災“いのち”と“くらし”を支える活動から学ぶ ～これからの生き方を見つめましょう～」と題して、NPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク理事長 黒田裕子氏より講演をいただきました。参加者：約150名。

■主催：のりがわ福祉の会 ■共催：能登川地区まちづくり協議会



「あなたならどうしますか」と問いかけられる黒田先生

学童こ二運動会を開催!!

■能登川東こどもの家「さくらんぼクラブ」

10月17日(水)、東小体育館にて【2人3脚パン食い競争】【色別リレー】【あめ食い競争】を行いました。学童ならではの面白さで一杯です。



歴史点描 ⑬

市史編纂室だより

幻の国際空港

かつて能登川地区に大きな内湖があったことをご存知の人も多いと思います。その内湖を農地にかえて米の増産をはかるという干拓事業が推進されました。小中の湖と大中の湖の干拓工事により風景は一変し、見渡す限り穏やかな田園となりました。田畑に豊かに実る作物に収穫されたかたがたの苦労が偲ばれます。

干拓地について、『能登川の歴史』第4巻資料・民俗編には、昭和39年12月14日付の朝日新聞(滋賀県版)に、大中の湖干拓地に国際空港を誘致する運動の記事が収録されています。ここには、地理的なメリットとして「京阪神と中京の間」「名神高速道路や国道8号線がある」ことが挙げられています。また、空港の誘致にあたって近江八幡市に新幹線の駅を整備しようという計画も含まれていました。大中の湖の面積は1145Ha、現在の大阪

国際空港(伊丹空港)は311Ha、関西国際空港は1055Ha(全体計画)ですから、大中の湖がいかに大きかったかが分かります。

この運動は能登川地区の将来にひとつの可能性があったことを示しています。実際には国際空港の誘致は幻となりました。能登川地区にとって、自然の豊かさと都市

化と、どちらが魅力的でしょうか。過去をヒントに能登川地区の将来を考えてみるのもよいかもしれません。

* 1 Ha(ヘクタール) = 10,000 平方メートル



織山眼下に広がる小中の湖(右手前)・大中の湖(上方)
 (『能登川の歴史』第4巻資料・民俗編より)

老いと向き合って生きる

第8話

治療の意味を 考えてみましょう①



「病気を治す」それは完治を意味する場合が多いですが、病気によっては完治がむづかしい場合もあり「生活の質を如何に高められるか」といった視点で治療される場合もあります。

では、あちこちが痛む、疲れる、手足がうまく動かないなど、我慢すればなんとか日常生活はできるような場合、つい無理を承知で無理を重ね、我慢できなくなると整体、鍼灸、あんま、マッサージなどに通うようになります。

「どこに行けばいいのかわからない?」誰もが悩むところですね。

私も同じで、いろいろ考えてA治療院にかけました。

ひたすら一生懸命に毎日通い続けました。電気、マッサージ、針と流れ作業のように行われます。そして気づいたことは、患者の思いが治療する先生に正しく理解されず、「こんな風に辛い、痛い」と訴えても「誰も同じだ」と言わなければ同じような治療を毎回されます。「良くなったか?」と考へながらの帰路。「歳だから仕方がない」と一時的には楽に思えるのでせつせと通ってしまいます。でも、また少し経つと同じことが繰り返されることになりました。

治療して良くなったなら、暮らし方を改善してまた同じところを悪くしないよう注意する努力が大切ではないかと思えます。

種自治会で第100回敬老会



盛り上がる祝宴



記念誌に収録した
第1回敬老会(大正2年)の集合写真

9月16日(日)、種自治会と種婦人会の主催による敬老会を、種老人憩の家で盛大に開催しました。敬老会の対象者は70才以上の自治会員101名で、参加者は70名でした。

種自治会の敬老会は、第1回が大正2年に開催され、今年が100年目になります。

集合写真を5年おきに撮影していますが、これにない今年も撮りました。

また100年目を記念し、記念誌を作成しました。ここには、対象者全員からの寄稿文と写真、大正2年の第1回から5年おきに撮影された20枚の集合写真を収録しました。この記念誌は、種自治会の全戸に配布しました。



対象者全員からの寄稿文と写真を収録した
記念誌の見開きページ



栗見新田町自治会「かまどベンチ」のお披露目

10月7日(日)、自主防災の避難訓練を早朝より実施しました。各組別に緊急避難場所に集合したあと、全員が集まる草の根広場(一時避難場所)へ移動して、点呼、非常持ち出し袋のチェックをしました。給水・給食班(赤十字奉仕団、老人クラブが主)は、早速「かまどベンチ」でハイゼックス包装食(各戸に一袋分)の炊き出しの準備に取り掛かりました。薪に火を点ける人、鍋に水を入れかまどにかける人、ハイゼックスの袋や水の点検など、それぞれの持ち場で忙

しく働きました。

「かまどベンチ」での炊飯の仕方は実際に試してみても良かったこともあり、ひとまずお披露目ができて喜んでいます。

今後は、避難訓練も始め、運動会、各組単位、各種団体などで活用していきたいと考えています。



水を入れて温めるだけで
ご飯になるハイゼックス

特定非営利活動法人 認知症を学び介護する会ほほえみ(通称 NPO法人ほほえみ)

平成19年6月、それまでの「家族会ほほえみ」から「NPO法人」として歩み始めました。

《認知症になっても住み慣れたところ(地域)で安心して暮らし続けられるまちづくり》を合言葉に活動しています。

① 家族会ほほえみ

認知症の家族を介護する『悲しみ・苦しみ・悩み』などを共有できる仲間が話を聞いています。

病気の根本はお医者様にお任せするしかありませんが、家族は日々の生活の中のモヤモヤを同じ体験、思いを持った仲間と話をすることで、少しやすらぎを持って帰っていかれます。そしてまた、家族の介護に向き合われます。介護保険制度が始まり、ケアマネージャーさんのかかわりもできましたが、本来の仕事はご本人の生活支援です。家族のケアまではできません。1人で悩んだり抱え込まないように家族会にお出掛け下さい。

② スリーA予防教室

毎週金曜日、保健センター2階の研修室から、元気な笑い声が聞こえてきます。

認知症・老化予防のスリーA教室を始めて6年が過ぎ、内容に工夫を加えながら歩み続けています。現在は毎回20名前後の参加者のみなさんとほほえみスタッフがいっしょに体を動かし脳を刺激し『あかるく・あたまを使って・あきらめない』と優しさをシャワーのようにふりそそぐスリーAの精神で教室運営をしています。

③ 啓発活動

自治会・老人クラブ・まち協(他市町含む)に出向き、認知症・老化予防のお話をしています。また、地域の活動(徘徊保護訓練の徘徊役など)にも、積極的に参加しています。

(代表: 松田順子、事務所所在地: 垣見町)

能登川地区で

東近江市総合防災訓練を開催

9月9日(日)、能登川スポーツセンターグラウンドで、平成24年度東近江市総合防災訓練が行なわれました。

「台風の影響で河川が増水し危険な状況の中、震度6弱の地震が発生。能登川地区では建物の崩壊や火災が発生し、負傷者も多く甚大な被害が出ている。」との想定で、市内32の機関・団体から約1400名が参加し、ヘリコプターや消防車も出動して放水訓練や炊き出し訓練を含めた各種の訓練が行なわれました。



要援護者救出搬送訓練（泉台自治会）



放水訓練



ヘリコプターも出動

能登川まち協からは、泉台自主防災会へ「要援護者救出搬送訓練」、舩光寺町自治会へ「避難訓練、避難所（やわらぎホール）運営訓練」を特別にお願いし、参加していただきました（安全・安心事業部から要請）。また、災害時に老人や女性、子どもが必要とする品々の展示コーナーを設け、災害に備えての細かな配慮を訴えました（地域福祉事業部で計画）。



女性、子ども用の災害用備品の展示
（能登川まち協）

なお、今回の訓練には能登川地区より18自治会が自主参加され、各種訓練に真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。

不測の災害に備え、私が、家族が、身の回りのできる事から始め、近所で話しあい、地域で取り組み、防災に強いまちづくりをみなさんとともに進めましょう。

（能登川地区まちづくり協議会）



能登川地区に能登川病院が

いまなぜ必要か！

能登川病院は能登川地区の身近な病院として多くの住民に親しまれてきました。能登川に生まれた人、能登川に住んでいる人で能登川病院にかかったことはないという人は少ないのではないのでしょうか。

その頼りにしている能登川病院が医師不足から深刻な経営の危機状態になり、東近江市や能登川病院の懸命の努力にもかかわらず、さらに深刻の度を増しています。

病院の経営は、努力やお金をかけただけで解決するほど単純な問題でないことはわかっており、東近江市も能登川病院経営検討委員会を立ち上げ、経営の改善への筋道を探っていますが、光明は見いだせておりません。東近江市担当部局、東近江市議会、能登川病院での多くの議論や状況分析から、能登川病院については早期に古くなった設備の更新をし経営の抜本的な改革

をしないと、いわゆる「まちら病院がなくなる」かもしれないという状況であると判断されています。

これからの超高齢者社会を迎えて、介護はもちろん、看取りについても家族、自分の問題として捉える必要があるとの認識が広がっています。滋賀県でも、医療福祉の在宅看取り地域創出会議を立ち上げられ、活発な議論を展開されています。自宅で見取るか病院のお世話になるかは、今に生きる

私たちの問題であり、近い将来人生の終焉を迎える私自身の問題でもあります。能登川地域の市民はもちろん、東近江市市民すべてが「誰かが何とかしてくれらるだろう」ではなく、自分自身でできることは何であるかを問ひかけ、行動するときではないのでしょうか。



能登川地区まちづくり協議会会長

藤居 正博